

# 日差しの下、愛校祭にぎわう



強い日差しの下、多くの人々にぎわった愛校祭

## ビッグアート力作そろろう

愛校祭だ！ エントランスの行燈に大きく書かれたごとく「魂の愛校祭」。秋になったと思っていました。真夏を思わせるまぶしくて強い日差しの中、中高生とも大きな声で、一人でも多く自分たちの展示や模擬店へ来てもらおうと声を張り上げました。人間彫像から金城学院生のダンスまで幅広く、若者男女すべての人が楽しめる一日となりました。(西秀忠)



発行所

名古屋中学・高校新聞部

名古屋市中区砂田橋2丁目1番58号

TEL 052-721-5271



よく見るとわかるビッグアート「クッパ」

中1は名古屋学院エンブレムをステンドグラス化。中2は巨匠ミケランジェロの名画「楽園追放」を1辺1・5cmの折り紙を使ってほぼ3カ月がかりで作りました。中3は、それぞれの思い出の写真を張り合わせるフォトアートの手法で、マリオのクッパを作りました。どこから見ても『頭に染み付く』ような迫力で

した。このほか、サマーエクステンションの研修先だった英国・カンタベリーについての映像発表もありました。生物部は学内で大切に育てた野菜を直売。ペット



人間、しかも男子生徒をマネキンにしてしまったクラス展示

ボトルロケットの体験コーナーでは、担当の生徒が優しく小学生を助けていました。それにしても真夏のような暑い一日でした。飲み物やアイスの売り場は大にぎわいでしたね。(藤島健太)

学内では、奇怪な格好の生徒もちらほら。女装もいれば、ホラー映画のキャラ、ドラえもん、サンタクロー



「つながる愛校祭」について考えました。「つながる」とは▽講演会で社会と「つながる」！▽金城学  
高1年C組の生徒は「マネキン」になりました。来場者が気に入った服を選び、生徒を着せ替える企画。特に女子学生からの人気が高かったようです。  
「つながる愛校祭」について考えました。「つながる」とは▽講演会で社会と「つながる」！▽金城学  
院と「つながる」！▽各企画が廊下で「つながる」！の3つ：いや、いくつあるかはあなたの「目」で確かめてください。人の数だけ答えがある。その情報を共有する。これも、「つながる」ではないでしょうか。そして、このコラムの内容を他の人に伝えてくれるとうれしいです。あ、それからこれも。珠玉の駄洒落です。「愛校祭、あ、行く」。(野川陽介)

## 怪しい人たちも…

コラムを兼ねて



怪しげな女装も話題になった中2の演劇



暑かったですね。飲み物の模擬店は大人気でした

中学生は演劇発表  
部員も出演  
中学生はチャペルで恒例の演劇に臨みました。中1は「もしも人格が入れ替わったら」。お互いのことを考える、大切さを題材にしています。

中2は三島由紀夫の「近代楽集」。すべてが終わったと思いついでいる次郎があるとき、不思議な夢を見ます。そのなかで、人生のはかなさを知る物語です。

中3は、戦争をテーマとして漢(おとこ)の友情を演じました。私も昨年に続いて出演しました。自分では納得できる演技だったつもりですが。(野川陽介)

# 猛暑より「熱く」燃えた夏

## 全国大会で各部健闘

記録的な猛暑だったこの夏、名古屋中高の各部は全国大会で健闘しました。中学テニス部は団体戦で8強。高校陸上部はリレーで高校総体初の8強入りを果たしました。運動部だけではなく、全国高校総合文化祭では、囲碁将棋部員が大将を務める愛知県チームが団体戦3位。全国に名中、名高の存在感を示した闘いの軌跡を紹介します。(藤島健太)

### 中学テニス 団体8強 応援後押し

中学テニス部は、8月19日から名古屋東山公園テニスセンターで行われた第40回全国選手権大会で、団体戦8強に入りました。団体戦はダブルス2組・シングルス3組の合計の勝敗で争われました。本校からは出場したのは、次の皆さん(敬称略)です。

◇ダブルス▽吉川海渡(3D)・久保田晃世(3A)組▽井上瑞基(3E)・伏見颯祐(3D)組◇シングルス 沖本東樹(3E) 中尾優作(2B) 上松悠真(2E)。

1回戦は岩手中(岩手)に4-1、2回戦は越谷市立栄進中(埼玉)に3-1でそれぞれ勝利しました。

### 高校陸上 リレー チーム力で初の8強

陸上部は7月29日〜8月3日、大分県で行われた全国高等学校体育大会に出場、4×400mリレーで、中野俊助・掛川真・古元翼・金森怜也・三浦成皓(全員6B)が、初の8位入賞を果たしました。

「4×」なのに、選手が5人いるのは訳がありまして、準決勝でのアクシデントです。ゴール直前、アンカーの金森さんが競り合いで他校の選手と接触し、16針も縫う怪我をしてしまったのです。

しかし、結果は3分12秒42のチームベスト。決勝には金森さんに代わって三浦さんが出場し、見事入賞を決めました。



大健闘した中学テニス部の井上瑞基さん(名古屋市東山公園テニスセンターで(伊藤清先生提供))

一方、円盤投げとハンマー投げに出場した根本裕貴さん(6B)は、両種目とも予選を突破。円盤投げは10位、自己ベストの57m70を記録したハンマー投げは11位でした。

やり投げの大久保直輝さん(6F)は、決勝進出はなりませんでしたが、ある応援歌を歌ったり「よっしゃー」「ナイス」などの声を上げ、どの学校よりも熱い応援で選手をサポートしていました。

炎天下、数時間にわたる試合。日頃の練習でつちかした集中力と体力、部員全員の団結力が今回の結果を生んだのだと思えました。



愛知県代表の全国3位を牽引した那波俊平さん(手前右)=長崎県時津町で(安藤仁先生提供)

### 囲碁代表 那波さん 全国3位に貢献

囲碁将棋部の那波俊平さん(5L)は、8月3日から長崎で行われた第37回全国高等学校総合文化祭に、愛知県代表の大将として団体戦に出場し、第3位と大健闘しました。中学生部員は7月28日から東京で行われた第10回文部科学大臣杯団体戦に臨みましたが、残念ながら予選突破できませんでした。(藤島健太、野川陽介)

### 「やっっているうち強くなる」 那波さんインタビュー

■全国3位の感想は? □うれしかった。1回戦で大阪に大将戦で敗れたこともあり、個人的に不満は残りますが、

■囲碁はいつからやっていますか? □幼稚園の年長の時に父から教わって始めました。だんだんはまって中

■囲碁の面白さは? □相手との駆け引きです。状況が突然変わる所も面白いです。

■囲碁をやってみたくてという人に一言 □とにかく楽しんでやってみてください。やっていると、長くとつていくことができます。

災害時に避難所となる学校に泊まり、必要な知識や技術を学ぶ体験会(生徒会、JRC部主催)が8月23〜24日、名古屋高校であり、生徒15人ほどが参加しました。東区役所、名古屋市上下水道局、NPO愛知防災リーダー育成ネットの協力

全体説明の後、水道が使える後、水道が使えなくなつたときに直接水道管から飲料水を供給する地下式給水栓の開栓訓練を行いました。実際に3つのペットボトルに水を入れ一日分の飲料水とします。次いで備蓄倉庫や校内の危険箇所を見学しました。備蓄倉庫の場所はまだ知られていませんが、学校の裏手、

テニスコートの隣にあります。夕方には炊き出し体験。持参した米でご飯を炊きました。缶の中に入れておいたティッシュペーパーに詰めて燃やした方法と、ハイゼックス袋という専用の袋に米と水を入れてコンロで炊く二種類の

逃げ延びる自信ついた 本校で避難所宿泊訓練

方法を試しました。そこにマックとスバリユから提供されたレトルトカレーをかけて食べました。

夜は柔道場に移動し、避難所運営ゲーム(HUG)をしました。アドバンスも受けることができ、有意義な1泊2日でした。(野村駿介)

コンを切つて就寝。翌朝7時に解散しました。

参加した界直希さん(2B)は「災害が起これば逃げ延びる自信ができました。ただ、他人を助ける自信はまだありません。次回もぜひ参加したい」と話していました。企画した水野大雅先生は「大きな一歩だが、課題はまだ多い。来年もぜひ参加してほしい」。

### 世界遺産で登山体験 富士山 好天恵まれ混雑なく

恒例の中学校登山体験学習が8月15〜17日、世界遺産に登録されたばかりの富士山であり、40人が参加しました。

一日目は事前研修。二日目午前9時半に静岡県側の須走口(新5合目)を出発し、午後4時半に7合目の見晴館休憩所に到着しました。カレーを食べて仮眠をとりました。

引率の三好隆文先生は「いい夏休みの思い出になったのではないでしょう」と話しました。(野川陽介)



世界遺産登録されたばかりの富士山で行われた中学校登山体験



間半ほど南にある古都カンタベリーのケン・ト・カレッジです。カンタベリーのプログラムの44人が参加し、杉原辰雄先生が引率しました。平日の午前は英会話の勉強

### 英会話に自信 英国で語学研修 一生の思い出

今年のサマーエクスチェンジは、イギリスで2プログラムが実施されました。会場は名門として知られるイートン校(ロンドン)と、そこから車で1時間、韓国や中国など多くの国から参加しました。

午後はスポーツをしたり、スコットランドのチ作りなどをしました。休日は、カンタベリー大聖堂やウィンザー城、リーズ城の写真など歴史的な建物を見学しました。

参加者からは「恥ずかしいという気持ちがなくなり、積極的に英語を話せるようになって自信がつけました。一生残る思い出になった。自分の性格まで変わった。流暢な英語は話せなくても、ジェスチャーで伝えることが多かった」などの声が開かれました。

杉原先生は「カンタベリーは歴史と伝統のある落ち着いた町で、異文化を学ぶのに最適。プログラムは、参加者を成長させてくれたと思う。一生の基礎を養っている思春期だから、アイデンティティーの発見があったかもしれない。海外へ行って文化を学ぶことは、いい意味でショックをあたえてくれる。自分の夢が見つかるかもしれない」と振り返りました。(西秀忠)